



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

2007年6月22日
MR/J25/07

メディア用原稿
非公式記録

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811
Fax: 03-3499-2828
E-mail: media@unu.edu
Website: http://www.unu.edu/

国連大学、「山岳環境への挑戦」シンポジウムを開催

- 内容： 国際シンポジウム「山岳環境への挑戦」
日時： 2007年6月27日（水）午前10時～午後6時
場所： UNハウス、ウ・タント国際会議場
主催： 国際連合大学（UNU）、「山岳環境への挑戦」シンポジウム実行委員会
共催： 環境省、北海道大学大学院地球環境科学研究院、日本大学文理学部、信州大学山岳科学総合研究所、ヤマ・ネット・ジャパン
後援： 富士学会

背景

- 山は人間の生存に不可欠なサービスと資源をもたらすだけでなく、文化遺産や生態的多様性の宝庫でもある。2002年の国際山岳年（IYM）に開かれたビシュケク地球山岳サミットでは、山岳地帯でその環境と共に生きることの難しさに対する理解を深め、山岳コミュニティが山岳生態系の価値を損なうことなく生活を改善できる力と支援を与えることを主眼とした話し合いを行った。
- 2002年にヨハネスブルグで開かれた持続可能な開発に関する世界サミットのひとつの成果が山岳パートナーシップである。この協力関係は、山岳地域の人々の福利、生活、機会の向上と、世界の山岳環境の保護と管理を行うことを目的として設立された。以後5年間、日本の研究機関、NGO、政府機関による共同事業体と国連大学は、国際山岳年日本委員会事務局を中心に、日本とアジアにおける山岳パートナーシップ・アジェンダの推進と実施に重要な役割を果たしてきた。
- 中央アジアの山岳地帯は特に最優先での取り組みが求められている。日本は率先して協力的な政治環境を確保するのに必要な地域の対話を進め、国連大学と山岳パートナーである各機関はこの地域で特定の山岳を対象とした研究開発イニシアチブを進めている。

シンポジウムについて

- 本シンポジウムは、中央アジアの山岳問題に取り組んでいる国内外の主だった科学者や政策立案者が集まる場となる。
- 国連大学のハンス・ファン・ヒンケル学長と環境省の代表による開会の挨拶の後、国際山岳年やビシュケク地球山岳サミットの成果について発表が行われ、今後の行動に向けたニーズと機会について話し合いを行う。
- その後、以下の3つのテーマについてパネル・ディスカッションを行う。
 - 「山の課題－山岳環境と人々－」
 - 「山の人々の取り組み－地域理解と解決能力の可能性－」
 - 「中央アジアの山岳環境への取り組み」
- 日英同時通訳あり。セッション3のみ、日露同時通訳あり。
- 取材をご希望の方は、下記担当者までご連絡ください。
国連大学広報部、担当：谷野（やの）（TEL:03-5467-1311 e-mail: media@unu.edu）

MEDIA ADVISORY